

水害対応と信仰の歴史

水害常襲地の社寺と庶民の祈り

(お願い)

- 本日の話は、水害(洪水)と過去の人々のかかわりのお話です。
- 主に神社と仏さま、荒唐無稽と思われるかもしれない地元に残る伝承・説話を題材として扱います。
- そこから当時の人々の心情を探りたいと思います。
- 現代のように科学が発達した時代の話ではありません。

科学が未発達部分を信仰が補う「衣食住**信**」の時代の話です。

現代感覚を少しの間捨ててご覧ください。(これが難しいのですが)

なお、過去・現在における宗教、宗教的意義を否定するものではありません。

今日のお話は、あくまで私の考えです。**皆さんはどう考えますか？**

埼玉県東部地区とは

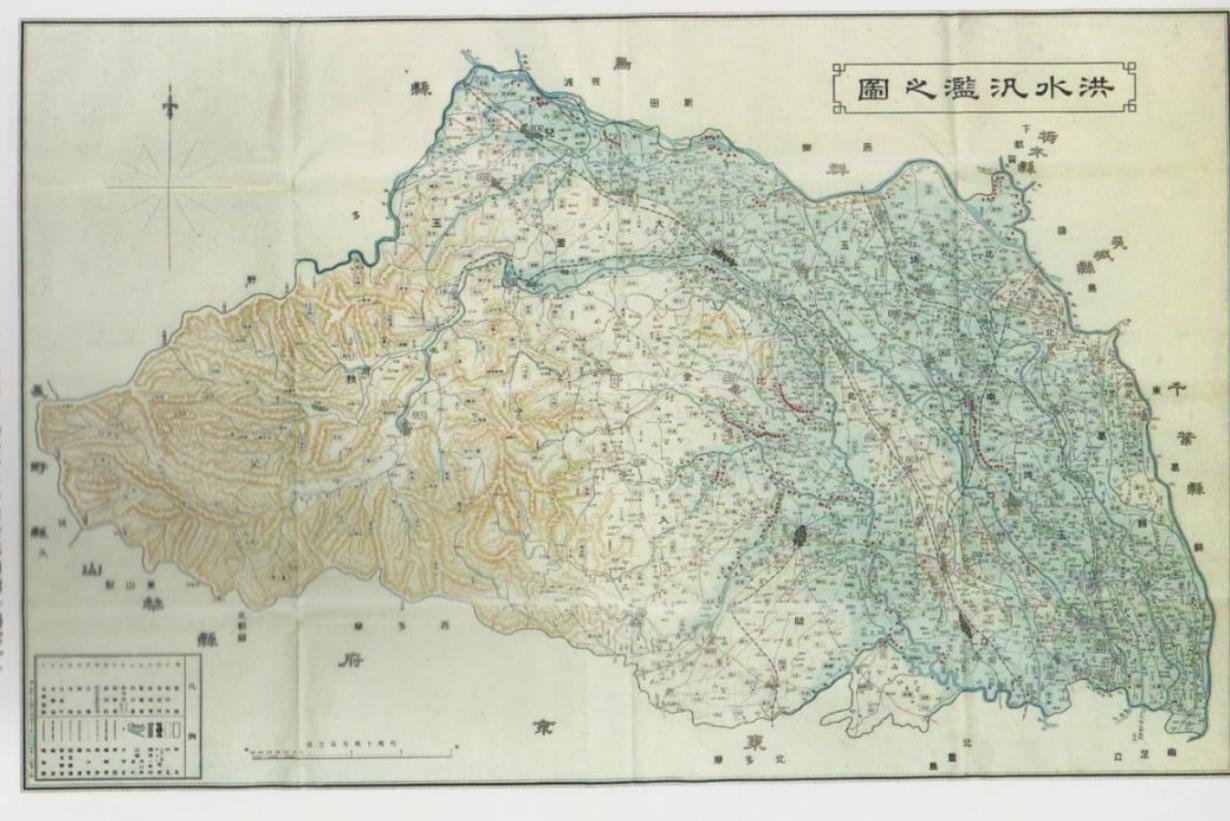


東部地区文化財担当者会管内図

「埼玉葛・北埼玉の水塚」より複写・転載

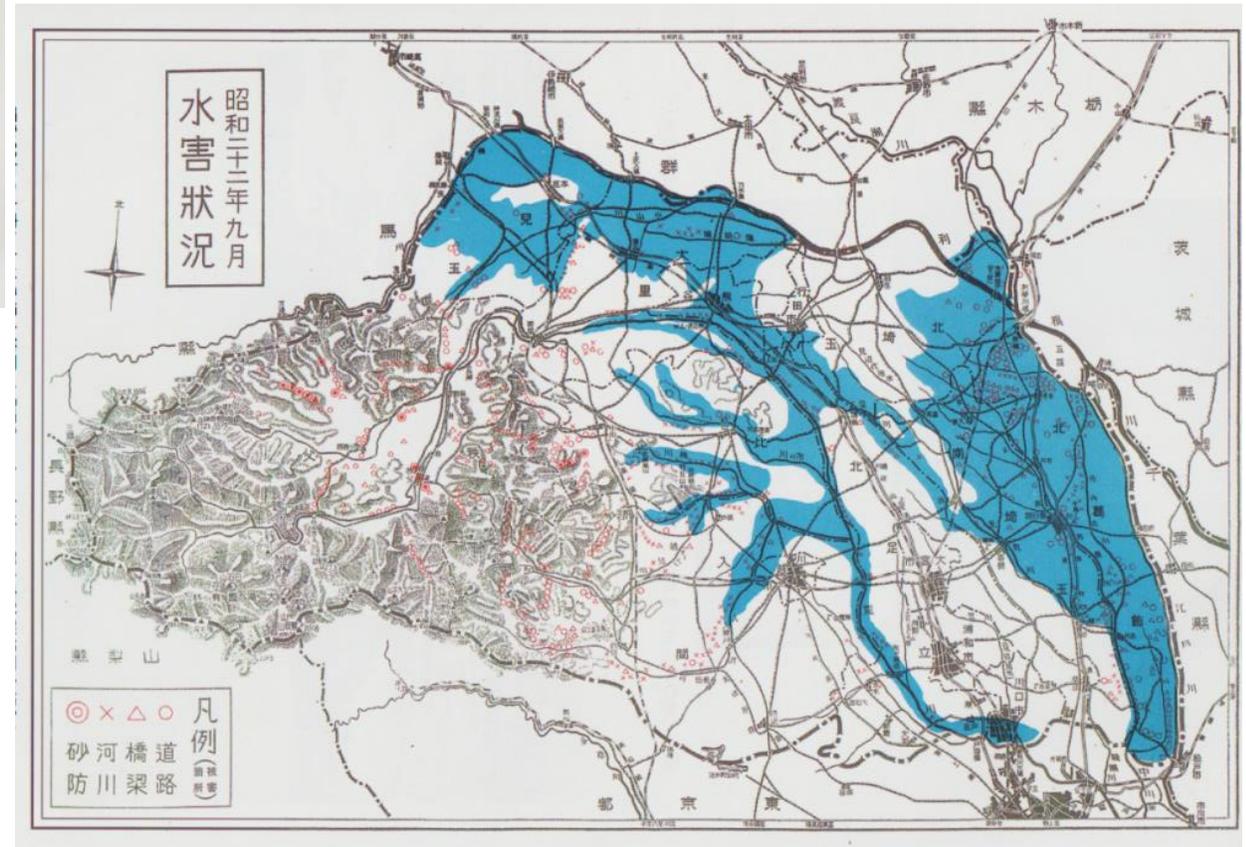
埼玉県東部地区とは

行田市から三郷市に及ぶ埼玉県東部地域は、その大半が加須低地、中川低地といった沖積低地に立地します。



明治43年の水害における浸水範囲（『明治四十三年埼玉縣水害誌』）

明治43年及び昭和22年の大洪水では、埼玉県東部地区ほぼ全域に被害が及んでいることがわかります。



昭和22年の水害における浸水範囲（『昭和二十二年埼玉縣水害誌附録写真帳』）

「埼玉葛・北埼玉の水塚」より複写・転載

はじめに

日本における神とは

- 人智の及ばない、人間の予想、予測を超えた存在。
人間の意志では如何ともし難い存在 = 自然現象
古代、神は**荒ぶる存在**。人の**願いなど叶えない**。
前触れなく、突然現れ、突然に意思(災い)を発する存在。
だからこそ祀る対象となる。生涯かけて祀る。子々孫々まで
かけて祀る。(「常陸国風土記 行方郡」)今私たちはどうか・・・
- 正反双方向の力を有する存在。
雨を降らせる力がある。 = **雨を止める**力もある。



畏き存在

「新編武蔵風土記稿」

- 新編武蔵風土記稿とは

- ☞ 1804(文化元)～1829(文政12)年
に各村から提出された地誌取調書上をもとに、
昌平坂学問所地理局によって編纂された地誌。

- ☞ 内容は、自然、歴史、土地、**社寺**、名所、習俗、**伝承**など

新編武蔵風土記稿の内容について

江綱村(埼玉県吉見町江綱)の事例

○江綱村 江綱村は江戸よりの行程、領主の遷替等前村に同じ、【小田原役帳】に松山衆知行役狩野介吉見郡大串内家綱五十貫文、卯檢地辻と載たり、されば當時大串村に属せしことしらる、家綱と記してえつなと唱へしを、音便に依て今の文字に換しなるべし、民戸九十、東は前河内村、南は市ノ川を限て比企郡上小見野村、西は流川村、北北久保田村 東西凡十六町、南北八町許、**水旱共に患あり**、用水は市ノ川の水を引沃ぐ、檢地は延寛六年中川八郎左衛門糺す、

高札場 村の西によりてあり、

小名 串酒 上下 元屋敷

堤防

水害も旱魃も共にある

市ノ川 村の西南を流る、幅六間より十間に及べり、岸に添て**水除の堤**を設く、

慈眼寺橋 市の川に架す、長八間の石橋なり、其名の起は比企郡古氷村に辯ず、

當村と古氷村の持なり、

私が扱う範囲

元巢明神社 村の鎮守なり、**祭神詳ならず、當社の名戻の訓に近きとて、**

嫁娶のときは社前を避忌と云、

祀られている神様がよくわからない

伝承

天神社
稲荷社二字
浅間社 以上寛性寺の持、
寶性寺 新義眞言宗、御所村息障院末、頼綱山觀秀院とす、本尊不動、當寺は三河守

北に係りし

頼綱と云人、永長年中開基せりと云相傳ふ、古へ荒川の流、當村の

安せしと

が、**頼綱或夜水邊にて、觀音像を水中より感得し、頓て當寺を造て**

云、今其像は境内に置り、

伝承

觀音堂 前に云る觀音なり、
薬師堂 寶性寺持、

祭神記載例

○江ヶ崎村附持添新田 (埼玉県蓮田市江ヶ崎)

久伊豆社 村の鎮守にて、**祭神大己貴命** 勸請は嘉吉年中なり
と云 別当 南学院 本山派修験、幸手小淵村
不動院の配下、九雲山と号す、開山頼奚永禄六年起
立す、本尊不動、

○山王社 南覚院持 ○稻荷社 ○八幡社 ○天神社
○愛宕社 ○妙見社 以上五社村民の持

○能増(のうます)村 (埼玉県小川町能増)
八宮明神社 村の鎮守なり、**祭神は日本武尊にて、十一面観音**
を本地仏とせり、当社古へはしばく丙丁の災に

罹りて、社頭も次第に衰微せしを、松山の城主
上田安獨斎再興して、神領をも寄附せし由、万
治元年別当秀永が記せし縁起に見えたれど、旧
記等は皆失ひて詳なることを伝えず 末社
鹿島社 香取社

○中新井村 (埼玉県吉見町中新井)
天神社 村の鎮守 星福寺持、下二社同じ
○男明神社 **祭神伊弉諾尊**なり、
○女明神社 **祭神伊弉冉尊**
○稻荷社 村民持、

○小川村 (埼玉県小川町小川)

ヤキウ

八宮明神社 村の鎮守なり、**祭神は国狭槌尊・豊斟淳尊・泥**
土煮尊・沙土煮尊・大戸道尊・大戸辺尊・面足
尊・惶根尊の八座なりと云、今本地愛染を置り、
勸請の年歴は詳ならざれど、元和三年再建の棟札
あれば、それより前の鎮座なりしことしらる、
別当 休蔵院 本山派修験、葛飾郡幸手不動院
配下なり、愛染山と号す、不動

解説

祭神が記載されている例は多くありません。

また、記されている祭神は、古事記、日本書紀に登場する神々が多いようです。

また、**八宮明神社**のように、同名の神社でも祭神が異なる事例があります。

その理由は定かではありませんが、本来的に全く異なる神社の可能性もあると言えます。

祭神詳かならず

○内牧村 附持添新田 (埼玉県春日部市内牧)
○城殿 (キドノ) 明神社 祭神詳ならず、

○須賀村 附持添新田 (埼玉県南埼玉郡宮代町須賀)
○身代 (ミノシロ) 明神社 祭神詳ならず、
本地楊柳観音を安ず
村内の鎮守なり、

○篠津村 附持添新田 (埼玉県白岡市篠津) 一
○愛宕九ヶ所明神合社 九ヶ所の祭神詳ならず、

○久喜町 (埼玉県久喜市)
○清瀧権現社 祭神詳ならず、

○上手子林村 (埼玉県羽生市上手子林)
○音無明神社 祭神詳ならず、

○上羽生村 (埼玉県羽生市上羽生)
○保呂羽権現社 村の鎮守なり、(中略) 祭神詳ならず、

○上外野村 附持添新田 (埼玉県加須市外野)
○河入権現社 村の鎮守なり、祭神詳ならず、

解説

「祭神詳ならず」とは、祭神が詳しくはわからないということですが、そんなことあるのでしょうか。村の鎮守(村の守り神)であっても詳しくわからないとは合点がゆきません。村人によってその神社は信仰され維持されているわけです。

またこれら神社の名称も多くあるものではありません。きっと地元の産土神(土地神、地主神)なのでしょう。

古事記や日本書紀に書かれる神々とは違った、昌平坂学問所のメンバーが知らない神々を祀っていると思われます。

○平野村 (埼玉県さいたま市岩槻区)
稲荷社 村の鎮守にして、村民の持、**本地十一面観音を安**、

○増富村 (埼玉県春日部市増富)
香取社 村の鎮守にて、社内に**本地仏十一面観音を安**ず、福蔵院持、

○飯塚村 (埼玉県さいたま市岩槻区)
久伊豆社 村の鎮守にて、祭神は大己貴命と云、**本地仏は十一面観音を安**ず、

○大澤町附持添新田 (埼玉県越谷市大沢)
照光院 新義真言宗、三之宮村一乘院末、梅花山と号す、**本尊不動を安置せり**、
天神社 **本地仏十一面観音を安**ず、土人鉦作の尊像と云

○上清久村 (埼玉県久喜市上清久)
○白幡権現社 白幡光明雷王大権現と号す、古へ足利高興白幡を納めしより、かく号せし由をいへど、高興の名聞くことなし。伝への訛りしならん、**祭神は雷電神本地十一面観音**、立像にて丈七寸余、行基の作、常徳院の持、

什物 雷槌一本

○小松村 (埼玉県さいたま市岩槻区)
熊野白山合社 **熊野の本地阿弥陀**、**白山の本地十一面観音を安**ず、何れも後光銘文あり、銘は朱漆にて後光は黒塗りの木なり、

○日影村 (埼玉県ときがわ町日影)
御霊社 村の鎮守にて、**本地仏地藏を安**ず、
志賀明神社 **本地仏十一面観音を安**ず、

解説

新編武蔵風土記稿のなかで神社の祭神の本地仏が記される例があります。本地仏記載例も多くはありませんが、その記載は重要です(詳しくは次ページをご覧ください)

武蔵国埼玉郡では本地仏に十一面観音が多いようです。十一面観音とはその出自がバラモン教に求められ、ヒンドゥー教の影響のもとに成立した菩薩と言われています。11の顔を持ち、10種の現世利益をもたらすと言われています。その10種の中に「水不能溺(水に溺れないで助かる)」もあり、水との関わりが深い仏様です。

本地仏とは

- 本地垂迹説・・・6世紀半ばに仏教が伝来して以来、日本では明治になるまで神仏習合（日本の神と仏教が結びついた信仰）でした。神社に寺院が建立されたり、寺院に神が祀られたりしました。（八幡神は出家し、八幡大菩薩とも呼ばれます。）

神仏習合の発展とともに生まれた考え方が本地垂迹説です。

神の**本来の境地**は仏であり、日本の人々を救うため、仮の姿として仏が日本の神に姿を変えて現れているという考え方です。



神本仏迹説、反本地垂迹説

解説

神は本来見えない、**不可視**の存在です。それを**可視化**するのも「本地仏」とも言えます。もちろん神像もありますが、数は少ないようです。

新編武蔵風土記稿における祭神と本地仏の一例

日本武尊	十一面観音
稻荷社	十一面観音
大己貴命	十一面観音
香取社	十一面観音

十一面観音を本地仏とする垂迹神の例

天照大神	大日如来・十一面観音
菊理姫（白山比咩神）	十一面観音
瀬織津比咩	十一面観音
九頭竜	十一面観音
聖天	十一面観音

新編武蔵風土記稿

- ・祭神は不詳だが、維持されており、信仰対象である。
- ・社内に本地仏が祀られている例がある。
- ・祭神不詳でも本地仏を祀る例がある。
- ・本地仏は**十一面観音**が多い。
- ・本地仏は異なる名称の神社、神を超えて存在する。

祭神が不詳でも、神社は存在し、管理・維持されている。
これはどういうことか。

祭神不詳社は産土神・地主神であろう。

いわゆる記紀に出てくる祭神ではない、人々に根付いている神、信仰があるのではないか。

その一つのあらわれが本地仏ではないか。

○上大崎村 久喜市
神倉龍蔵権現社 村の鎮守なり、祭神詳ならず、十一面観音・愛染
の二像を本地仏とす、金剛院持、

○栢山村 附持添新田

神明社 村の鎮守、正月十四日筒粥の神事を行ひて年の豊凶を占を以例祭とす、妙法院持、

○久伊豆社 梅松院持

○三嶽権現社 正法院持

○稲荷社二宇 一は蓮華院持にて、三角稲荷と唱ふ、一は村民の持、

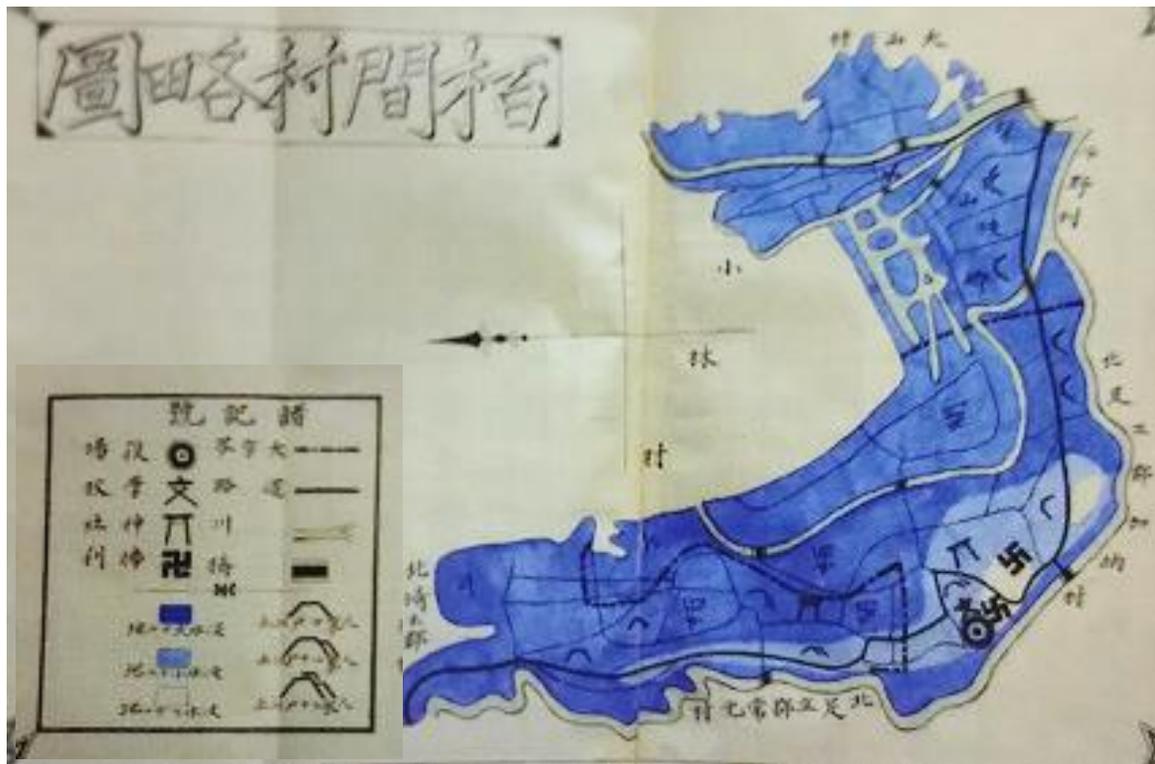
善宗寺 浄土宗、京都知恩院来、寺領五十石は慶安二年十月十七日御朱印を賜ふ、(中略)本尊阿弥陀

秋葉社 天神社 阿弥陀堂 観音堂 鐘楼
を安ず延宝五年八月、大檀那内藤外記正重、寄附の鐘をかく、

○幸福寺 禅宗曹洞派、上野邑楽郡堀工村茂林寺末、寺領十

石慶安二年十月御朱印を賜ふ、光明山号す、古は天台宗にして村内妙法寺宗徳寺は、皆当寺の寺中なりと、延徳元年当宗に改められたれば、夫より前の事跡は伝へず、故に改宗の僧瀬桂正香禅師を開山とす、大永三年十一月五日寂す中興僧中孚異大は、天文十七年二月五日寂す、**本尊十一面観音を安ず、大御堂** 弥陀を安ず、此堂を掘河山妙法寺と号す、是往昔当寺の塔頭なりしが、何の頃よりか境内の一堂となれり、**此堂は大同元年造立のまゝなりと云、其正しきを知らず、されど其造り様古色にして、古き事は疑へくもあらず、(後略)**

洪水と村人



栢間村の浸水状況を示す図
(『栢間村水害誌』より)

「埼葛・北埼玉の水塚」より複写・転載

表1 栢間村における浸水家屋情况 (明治43年8月12日現在)

大字名	床上浸水戸数 炊事不可能	床下浸水戸数 炊事不可能	浸水無し戸数	全戸数	全戸数に対する 浸水家屋割合
下栢間	154戸	13戸	6戸	173戸	96.5%
上栢間	165戸	4戸	1戸	170戸	99.4%
柴山枝郷	141戸	0戸	0戸	141戸	100.0%
合計	460戸	17戸	7戸	484戸	98.6%

『栢間村水害誌』より作成

「埼葛・北埼玉の水塚」より複写・転載

一瀉千里ノ大洪水ニ、上郷ヨリノ交通機関ハ全ク杜絶シ出水ノ程度ハ更ナリ、襲来ノ有無スラモ予知スルコト能ハズ、家財ノ所置ハ為メニ欠キ避難ノ準備ハ為メニナシ、此時二際シ突如濁水ノ横流スル所トナリ、其勢極メテ猛烈、滔々トシテ堤ヲ越工、汪然トシテ広野ニ漲リ、床ヲ浸シ、忽焉トシテ中敷居ニ上ルノ家アリ、或ハ屋根ヲ浸サントスル勢ヲ以テ増水ノ止ルヲ知ラズ、幸ニモ二階アル家コソ避クルニ易ケレドモ、矮屋避クルニ所ナキモノハ床上ノ増水口ニ入ルノ止ム無キニ、梁ニ登リ或ハ立木ニ攀ゲテ救ヲ求ム等其惨憺、其悲愴決シテ想像ノ能スル所ニアラズ、救ヲ求ムル声ニ船ヲ漕ガントアセレドモ、水勢強クシテ三人ノ漕手猶力弱シ、辛クモ漕付ケ見レバ濁水軒ヲ浸シテ舟ノ家ニ入ラザレバ、屋根ヲ破リテ之ヲ救出セシモノ尠カラズ、財ヲ水塚ニ移サントシテ途中水勢ニ押流サレ九死ニ一生ヲ得タルモノアリ、家財ハ見ルく間ニ流レタレ、生命ノミハ救ハレタレバ悲愴モ亦甚シカラズヤ、然レドモ船アル人々ハ各々船ヲ出シテ其救助ニ努力シ、近隣相助ケテ一人ノ危難者ヲモ見ザリシハ、実ニ不幸中ノ幸トコソ云フベケレ

『栢間村水害誌』の「特殊ノ避難情況」

洪水と村人 「大水記(おおみずき)」

寛保3年(1743)成立

享保12年(1727)、13年(1728)、寛保3年(1743)の洪水の記録と教訓

武蔵国領入間郡久下戸村(川越藩)

奥貫友山((1708-87)名主(村の指導者)記

●入間郡久下戸村(現川越市)名主・五平次による「大水記」より
三十人、五十人と死体が連なって流れてくる、子供を抱いたり人や馬が昼も夜もひっきり無しに流れてくる。屋根の上には、助けを待つ人がおり、小舟を出して、村中を回り被災者を大きな家や寺に避難させた。



国土交通省 関東地方整備局

荒川上流河川事務所



HPより

吉見町

コミヤウ

○古名村 古名村は江戸より十三里余、村の沿革を尋るに正保の国図に下砂村あり、

—(中略)—

後に各一村と

なりしかば、下砂の名亡びしなるべし、又当村古は横見村と号せしが、洪水にかゝり一旦退転せしを、丸貫村より来て再び開墾し、村名を古名と改むと云説あれど、今土人は伝へず、—(後略)—

被害: 増水により、井戸に汚水が流れ込んで井戸水が使えなくなる

対策: 井戸水をあらかじめ汲み上げて蓄える

被害: 浸水時に屋敷中に汚物が拡散する。除去には数年かかる。

対策: 便所の汚物を、田畑の側の肥溜めに移しておく

- 友山が子供の頃(1710年代と推測)には家々に水塚があった。
その後旱の年が続いたため、どの家でも水塚は取り壊され、今(1743年)村には一つも水塚はない。



水塚を壊して農地に。(目先の経済利益と利便性)

享保12・13年の洪水でも、水塚が必要なほどではなかった。
水塚の必要性を看過した。

結果

寛保2年(1742)の大洪水において大被害。

教訓 「古来より続いてきたものを廃止してはいけない。」



加須市 北川辺ライスパーク内に復元された水塚

水塚 (みつか)

台風による洪水に備え、避難場所や非常用の食糧の貯蔵庫として建てられたものです。

母屋の西北に、2m～3m位土盛りをしたその上に小屋を建て、米・味噌・醤油等を貯蔵し、二階は寝起きができるようにしてありました。

現在は洪水の心配も少なくなり、生活に不便のため壊されつつありますが、町内にはまだ数多くの水塚が残されています。

北川辺町ライスパーク



揚舟(洪水の際、救助・運搬に利用。普段は陸に揚げられているのでこの名称がついた。)

加須市琴寄の水塚



写真は「埼葛・北埼玉の水塚」より複写・転載

東部地区文化財担当者会民俗部会による調査結果

この水塚を有する家は、琴寄50か村の**庄屋**を務めていた。

塚の平面形は**L字形**を呈する。

規模は幅69m、奥行き35m(長い部分は58m)、高さ3mを測る。

前面のみ石積みの造り。

石段の上には**八幡社**が祀られている。手水鉢には天保10年(1839)奉納と記される。

昭和22年(1947)の水害時には、水塚の上で手が洗えるほど水位が上がり、150人が2~3か月避難した。

塚の上には蔵が4棟あった(現在、形をとどめているのは2棟)。

構え堀は三方に5,000㎡ほどの広さで巡っていた(現在は埋め立てられている)。

揚舟は2艘所有している。



埼玉県富士見市難破田城公園



稻荷大明神

写真撮影:小宮雪晴

水塚に祀られる神・・・稲荷神、八幡神、第六天神など

- **弘化4年(1847)** 長野県北部で発生した**善光寺地震**(大地震、山崩れ、洪水)に関する記録 筆者「**弘化大地震見聞**」小森村の大久保董斎(寺子屋師匠)、「**善光寺地震大變録**」森村の中条唯七郎(名主)

- 3月24日 地震発生

大地の鳴動が響き、董斎は起き上がり**一心に念仏を唱える**。その後地震と気づく。

震動が少し収まり、外へ出ると13か所から火災が発生し、白昼のような明るさ。

村人たちが**村の鎮守に参詣**するようなので、董斎も向かう。拝殿は倒壊、屋根が落ちている。村人たちは、「**鎮守の神様が身代わりになってくださった**」と言い合って、**喜び拜んでいた**。(見聞記)

- 3月27日 **雨宮村**で**山王宮**に願掛けするために、村人が**水垢離**を行う。(大變録)

- 3月28日 松代藩が社寺に**祈禱**を命じる。(大變録)

- 4月2日 森村の若者たちが鎮守の社で**水垢離**。**神託**を聴こうとする。(大變録)

陰陽師が代官所に呼ばれ易術で地震終息を占い外れまくり自宅謹慎。(大變録)

洪水と村人 弘化大地震・善光寺地震大變録見聞記に見る普請

- 人足は一日に3000人。
- 工事現場には、五色の吹き流し、陣鐘、陣太鼓が備えられる。



現場は戦場の様相

- 堰き止め箇所を掘削し、下流に水を通す作業場は危険そのもの。
- 人足たちは恐怖し、誰も作業を始めようとはしない。
- 藩役人「躊躇するのは人情の常、しかし工事を進めるためなら躊躇う者の一人二人は切り捨てる。」



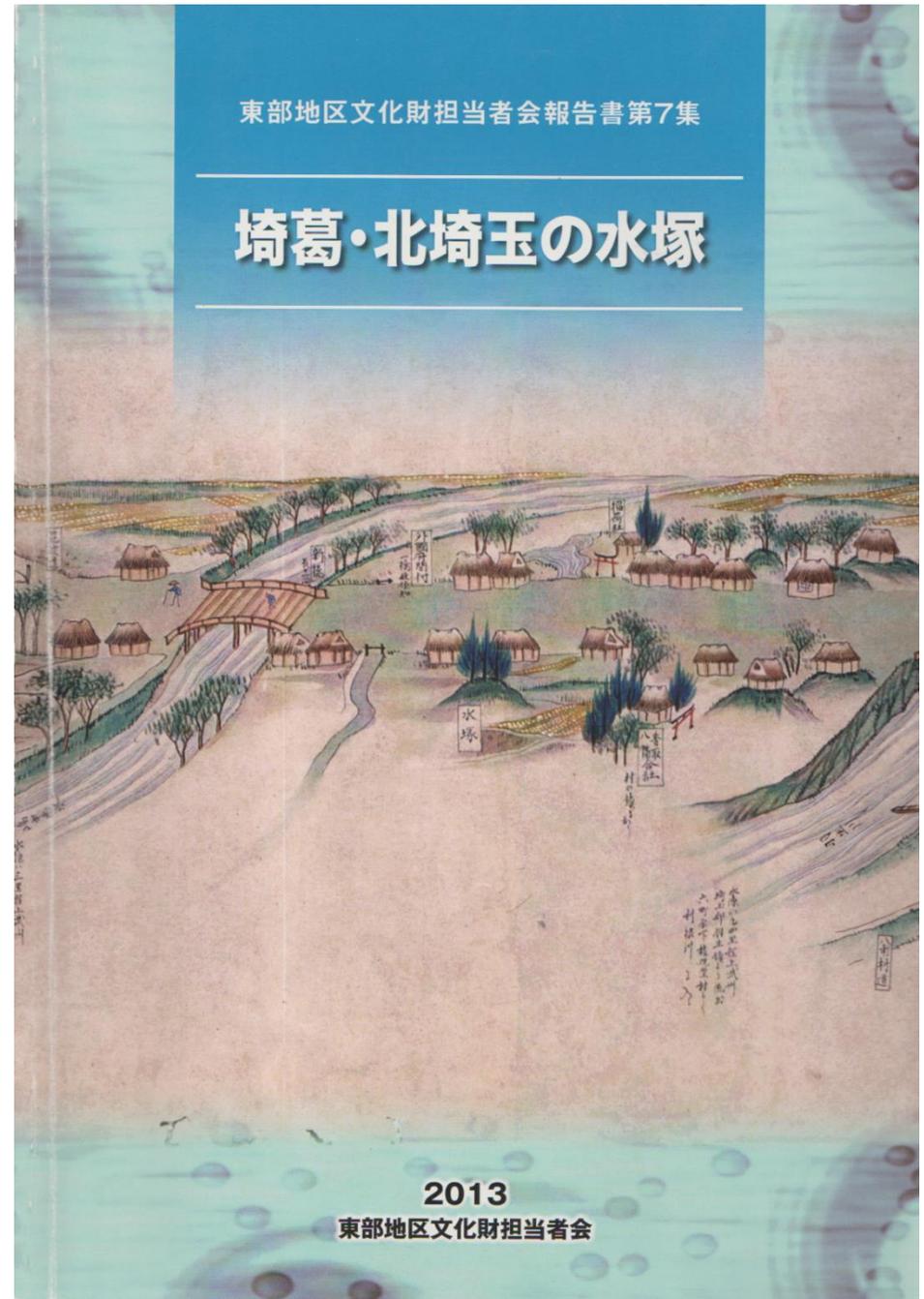
戦争中の発言と同様

被災したうえに危険な労働を行わなければならない状況



埼玉県東部地区における水塚の分布状況

東部地区文化財担当者会報告書第7集
「埼玉・北埼玉の水塚」より転載



好評発売中

神社の立地

水神とは

「水」を司る神、水利の神の総称

万葉集 卷二 相聞歌

わが丘の「**おかみ**」に言ひて ふらしめし
雪のくだけし そこに散りけむ

藤原夫人(ふじわらのぶにん。鎌足の娘、大原大刀自。)

金塊和歌集

(建暦元年(1211)七月 洪水天にはびこり 土民愁嘆
せしことを思ひて一人本尊に向かい奉り いささか祈念
をいたして曰く)

時により 過ぐれば民の 嘆きなり
八大竜王 雨やめたまえ

源実朝

解説

「おかみ」とは龍のことです。この歌は、天武天皇が「都には雪が降ったよ。あなたがいる田舎に雪が降るのはもう少し後ですね。」という歌に返したものです。

「その雪は私が住む大原の丘の龍神に言いつけて降らせた雪のおこぼれですよ。」との意味です。

8世紀にはすでに天候に関わる龍神信仰があったことがわかります。

解説

「八大龍王」とは、仏法を守る八体の龍神で、戸隠や箱根に祀られている九頭竜もこの八大龍王のうちの一龍神です。

水や雨に関係が深く、降雨・止雨を司るとされます。

「雨が降り過ぎると民が嘆く。雨を止めてください」と將軍である実朝が祈っているわけです。

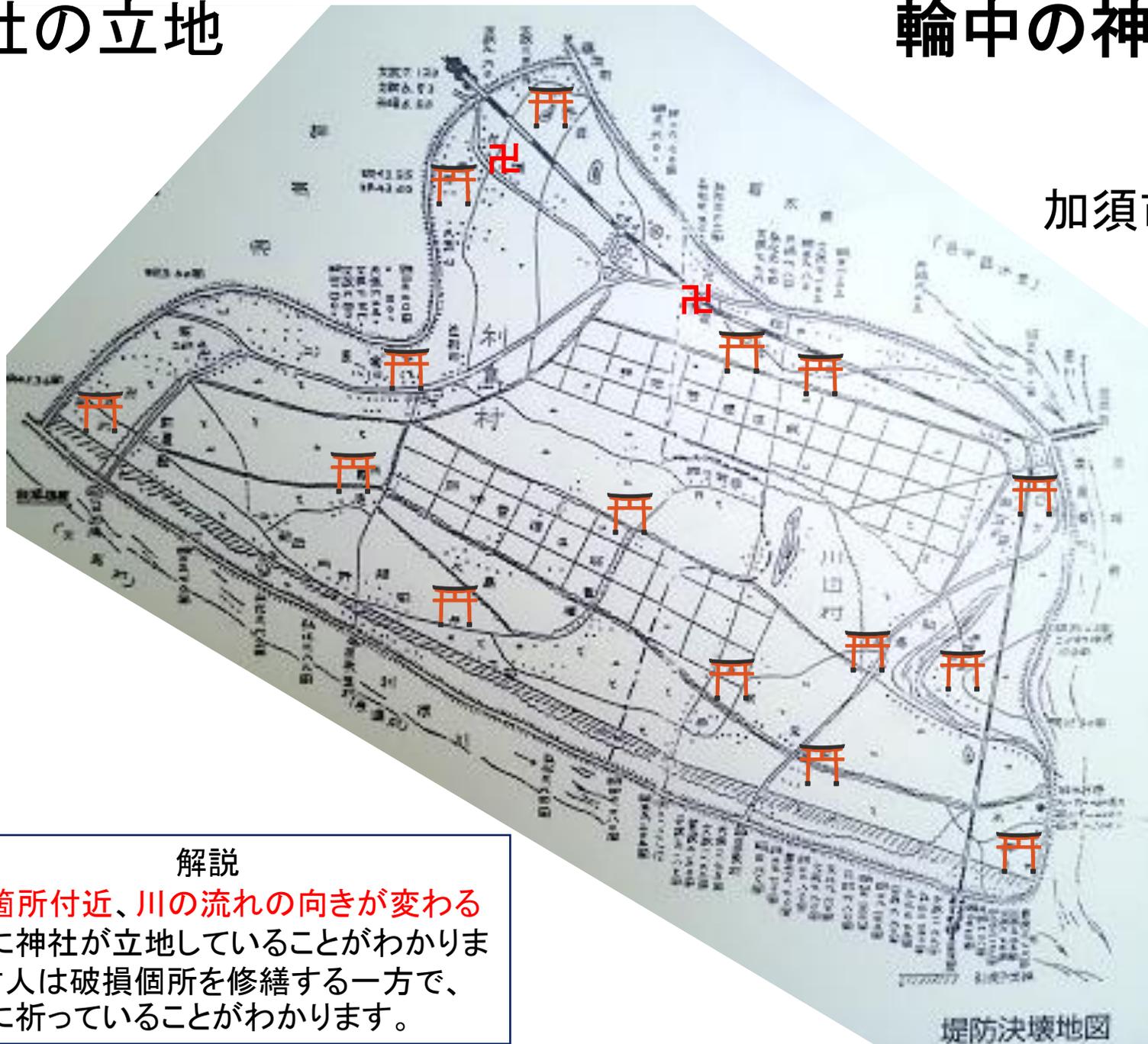
天候の祈願は、為政者の務めでもあることがわかります。

神社の立地

輪中の神社の立地

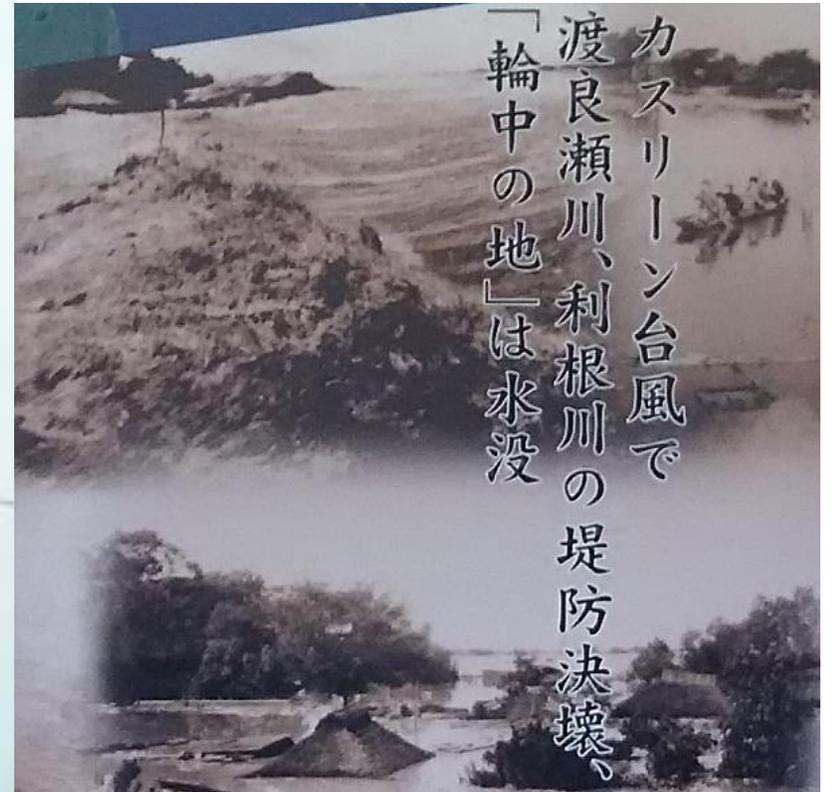
加須市北川辺(旧北川辺町)

加須市北川辺郷土資料館展示パネルを小宮雪晴が
写真撮影・加工



解説

破堤箇所付近、川の流れる向きが変わる箇所に神社が立地していることがわかります。村人は破損箇所を修繕する一方で、神仏に祈っていることがわかります。



カスリーン台風で
渡良瀬川、利根川の堤防決壊、
「輪中の地」は水没

神社と立地

武蔵第六天神社



出典：国土地理院ウェブサイト
(https://maps.gsi.go.jp/#16/35.930552/139.734936/&base=std&ls=std%2C0.53%7Chillshademap%7Cslopemap%2C0.48%7Canaglyphmap_color&blend=1.11&disp=1111&lcd=anaglyphmap_color&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1)
地理院タイル (標高タイル) を加工して作成



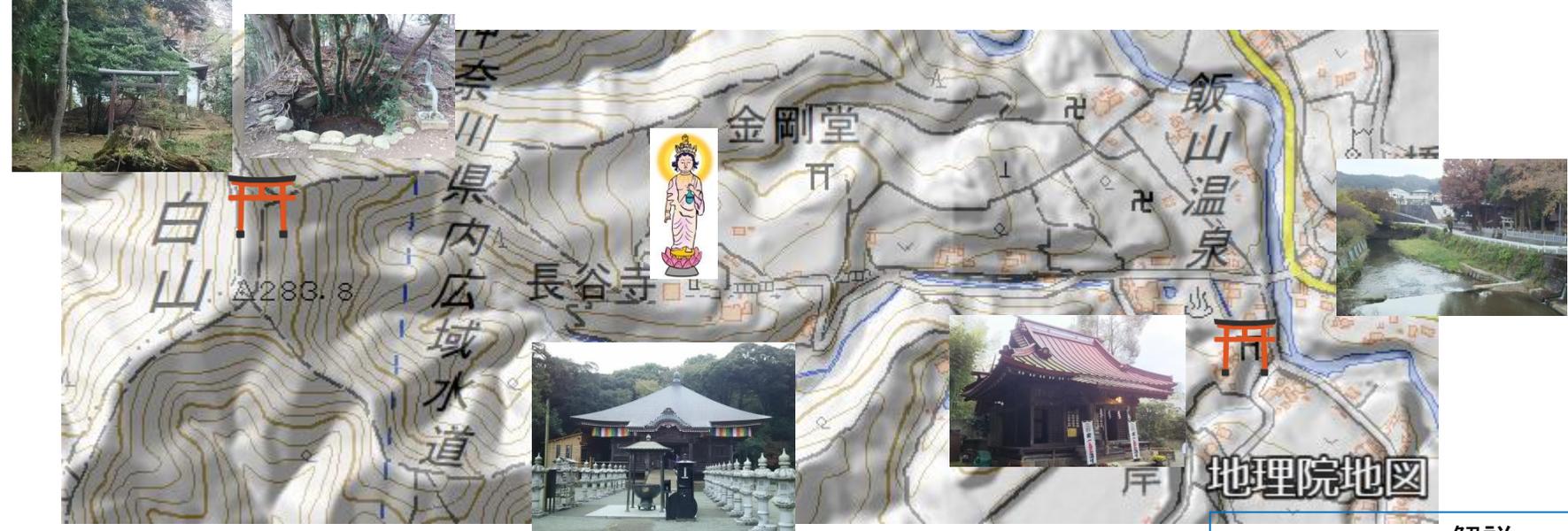
写真撮影：小宮雪晴



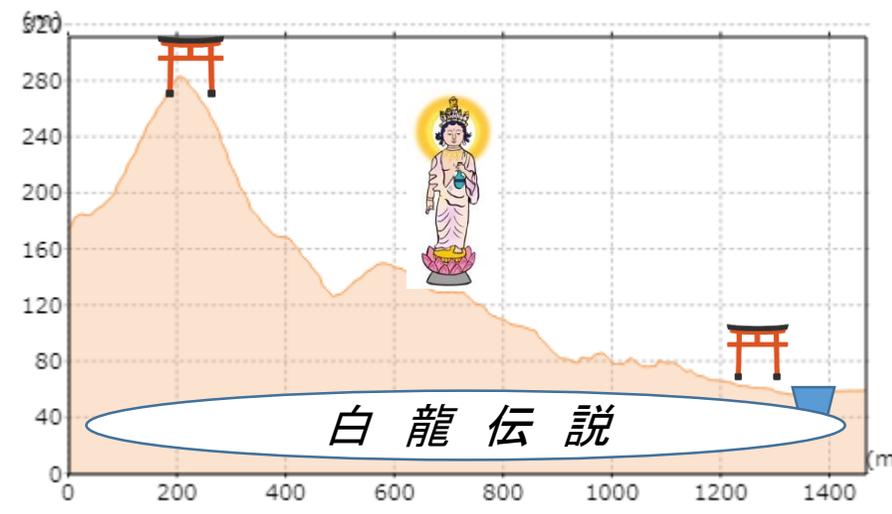
水神の立地

水神が祀られる場所

白山池の雲水(白龍伝説)
 飯山観音の裏、標高二百八十四メートルの白山、その地望の頂上は一メートル四方の小さな池があります。不思議なことに、いかなる季節にも水が流れなかったといひます。そのため、日晴が続く農作物が心配な時、農民達はこの池の水を空にして雨をいそぎました。すると、やがて一丈にわがにかき曇り、三日三晩雨が降り続いたものです。これは、この山に住んでいた白龍の水呑み場。故に水が無くになると白龍が雨を降らせるといふ伝説です。この山から、神を川五十邊の飯山観音大社が作られました。



出典: 国土地理院ウェブサイト
https://maps.gsi.go.jp/#16/35.470806/139.304430/&base=std&ls=std%7Chillshademap%2C0.5%7Canaglyphmap_color%2C0.97&blend=01&disp=110&lcd=slopemap&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1
 地理院タイル(標高タイル)を加工して作成



解説
 山や湧水地に水源神・水分神(みくまりのかみ)、川の屈曲点付近で川を見下ろす場所、川べり、土手、堰など川に関わる人工物に神仏を祀り、これに伝承・説話が加わり、長雨や旱魃に対処するものを地域の水神信仰の典型と考えます。
 厚木市飯山の例として挙げます。ここでは、白山神社が「水源神」、十一面観音を祀る長谷寺が「守護神」、川の屈曲点で川縁に鎮座する龍蔵神社が「鎮撫神」と捉えられます。そして、「白龍伝説」がこれに加わります。

水神と立地

見沼低地における信仰 「武蔵国一宮三社」



解説

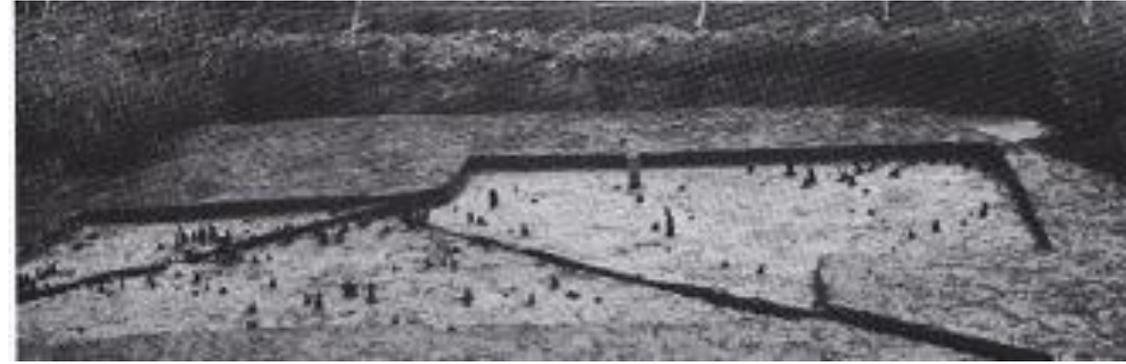
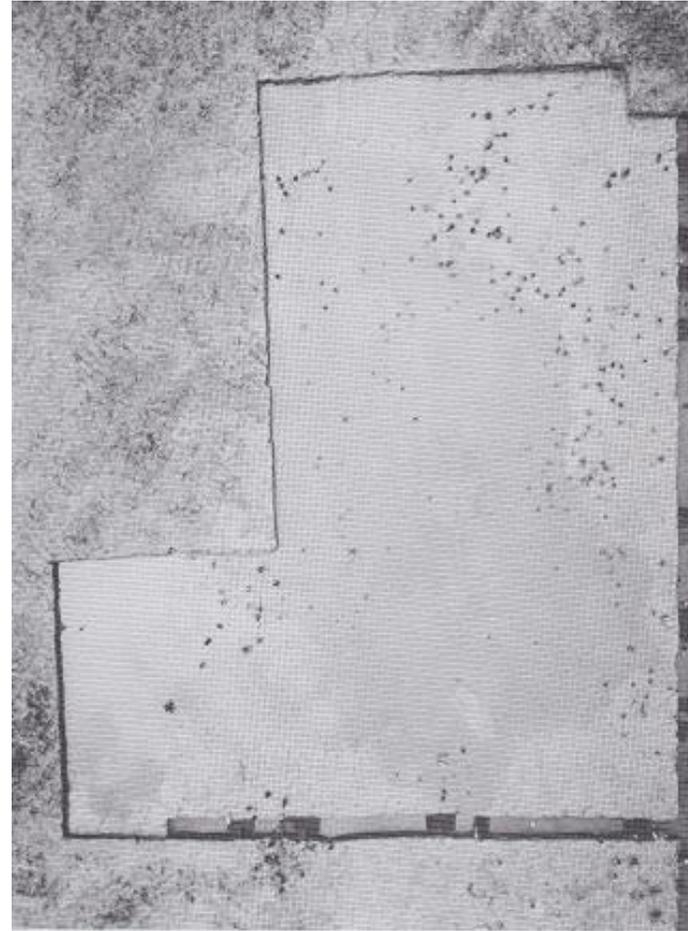
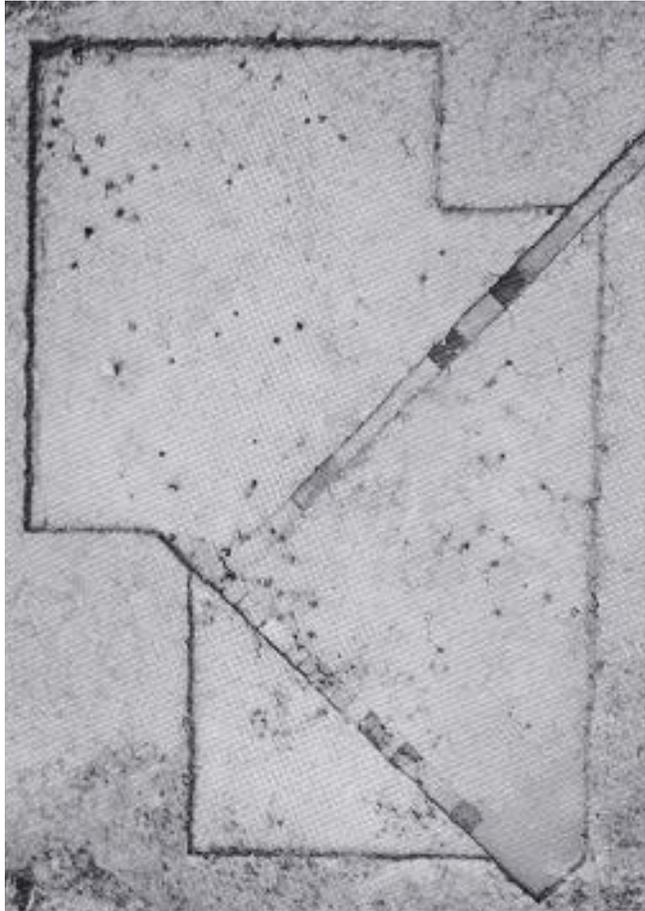
平地においても同様です。谷頭の湧水地に水源神（大宮氷川神社内 蛇の池）、川の屈曲点付近で川を見下ろす場所に「中山神社」、「氷川女体神社」が存在します。そして沼地には斎場（いつきば）を設け、荒ぶる水神を鎮撫したのでしょう。

そして、見沼低地にも数々の「龍神伝説」が加わります。

出典：国土地理院ウェブサイト
https://maps.gsi.go.jp/#13/35.895725/139.696827/&base=std&s=std%2C0.53%7Chillshademap%7Cslopemap%2C0.48%7Canaglyphmap_color&blend=111&disp=1111&lcd=anaglyphmap_color&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1
地理院タイル（標高タイル）を加工して作成

水神と立地

見沼低地の斎場「四本竹遺跡」



神社の立地

堤防・堰を守る神々

写真撮影:小宮雪晴



穴守稻荷神社

江戸時代に開拓地を守る神として祭られた穴守稻荷神社は、第二次大戦まで現在の羽田空港内にあったが、終戦後に占領軍によるハネダエアベース建設のため現在地に転居した。明治時代半ばに女性の守護神、金運の神として急速に隆盛をみた。現在も商売繁盛・家内安全のご利益を求めて多くの人々が参詣する。また奥之宮の「福砂」は玄関光などにまくと人を集めると言われている。

羽田から稲谷の神社を走り歩く「羽田七福いなりめぐり」のコースにも入っている。

大田区観光課

水神社 日台台子百一六

祭神は 速秋津彦命、速秋津姫命、水神天皇
 創建の年代は明かでない。
 『江戸砂子』には、「上水懸けてより関口水門の守護神なり」とある。
 わが国最古の神田上水は、徳川家康の命により、大久保上水が開いた。井頭池からの流れを、日台台子下の現大橋のあたりには、堰(大流堰)を築き、水蒸をあげて上水を神田、日丸橋方面に通じた。
 伝説によれば、水神が八咫を社司の尊位に立ち、「渡水伯(水神)なり、水をこの地に祀らばは地の守護神となり、村民を福の江戸町とことごとく安泰なり」と誓ったのでここに水神を祭ったという。
 上水の懸念にあずかつた神田、日本橋方面の人たちの参詣が多かつたといわれる。また、このあたりは田圃地帯で、清らかな神田上水を流し、昔には早稲田稲んぼが盛なり、後には月台の林山を控へ、西には富士の峰も美しく眺められて、江戸時代は行幸の地であった。

郷土愛をほぐくむ文化財

文京区教育委員会
 昭和五十八年三月

漂着神・流出神

漂着信仰

海や川を経て海浜や川岸、堰などに流れ着く
寄り物(よりもの)を神として祀る信仰。
対象は、**祠**、**獅子頭**、**仏像**、**流木**、船、壺、石、
樽、タコ、海藻など幅広い。
水中出現もこの類。

解説

漂着神が存在するということは、**流出神(私の勝手な造語です)**が存在する、ということです。

流出神が存在するということは、**洪水で流出する場所に神が祀られている、神社があるということです**。流されることを承知の上で祀っているのでしょうか。

右に例示した上細谷村の飯玉氷川明神は流出神、久保田村の飯玉明神は漂着神です。

漂着神・漂着信仰は先学の研究も、民俗事例も多くあります。

大水による神社流出伝承や記録もあります。**神を流す信仰**の可能性について今後考えたいと思います。

○上細谷村附持添新田

飯玉氷川明神社

是【延喜式】神名張に載る横見の神社にて、

祭神素戔鳴尊稻倉玉命なりと云伝れど、慥なる処あるにはあらず、当村及下細谷・黒岩・御所・谷口・中新井・久保田七ヶ村の鎮守なり、社の後に神木とて、圍一丈五尺程の松あり、此下に石槲ありと云伝ふ、古は社に金の幣束ありしが、**中古洪水の時社共に、久保田村へ流れ行て、今は失へりとぞ、別当は下細谷村照明寺なれど、御所村の持にして、平日は黒岩村大宝院進退せり**

○久保田村附持添新田

荒川 持添新田の東、足立郡の境

を流る、川幅十三四間

飯玉明神社

当村及び上下細谷・御所・中新井・谷口・和名・小新井等の

八村の鎮守なり、神体は石剣なり、当社は元御所村なりしが、**水災に逢て漂着せしを、取上て爰に祀とて、此地そのかみ愛宕社地なりしが、今は衰て却て末社となれり、無量寺持、末社 愛宕社**

漂着神・流出神

流れ着く神・流される神



川口市前川神社

「文蔵村(現さいたま市南区文蔵)の氏神社が洪水の度に流されて前川の不利(きか)ずの堰に漂着。二度は文蔵村に返したが、三度目はよほど前川に留まりたいのであろうと、勢貴社に奉斎した。洪水時、前川の堰に漂着したお社が、神様自ら堰の一部となって洪水を塞ぎ止めようとするお姿に見えたという伝承があります。

主祭神は**勢貴大明神**で、**勢貴(せき)**は**堰**を表します。

写真撮影:小宮雪晴



船戸氷川神社 十度の宮

解説
洪水で十度流され、十度戻ってきたとの伝承のある石祠です。
洪水で流されるたびに村人たちがまた祀り直したのでしょう。

出典: 国土地理院ウェブサイト
https://maps.gsi.go.jp/#14/35.788298/139.689360/&base=std&ls=std%2C0.53%7Chillshademap%2C0.79%7Cslopemap%7Canaglyphmap_color%2C0.85&blend=111&disp=1111&lcd=anaglyphmap_color&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1
地理院タイル(標高タイル)を加工して作成

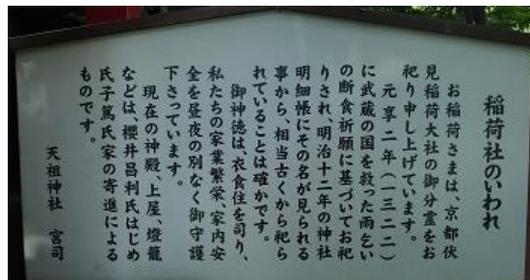


ちょっと気になる稲荷と雨乞い

上神明天祖神社



三囲(みめぐり)神社



解説

稲荷神社は農業の神、田の神、食べ物の神として信仰されている例が多いですが、**雨乞い**を行っている事例もあり、水神としても信仰があったようです。延喜式における**祈雨神祭八十五座**には**稲荷社が三座**含まれています。

品川区の上神明天祖神社の稲荷社、墨田区の三囲神社(稲荷神社)でも**雨乞い**が行われていたことがわかります。

災害伝承は防災・減災警告であり**共同記憶の手段**

「白髭水・白髭伝説」

- 木こりが木を切りに川奥へ入ると、白髪・白髭の翁が現れ弁当をねだられる。ある日弁当の代わりに熱した石と油を与えたところ、口から火を噴きながら「雨よ降れ！」と叫ぶと大雨が降り、川が氾濫した。以来、川が氾濫すると「白髭水」が出たと言うようになった。(中津川流域)

この話から、白髭の翁は雨を司る水神であることがわかります。

- 濁流に流される丸太(屋根の場合もあり)に乗って白髭のお爺さんが「大水が来るぞ！」と叫んだ。(只見川流域)

自然に神が宿るなら、**白髭のお爺さんは丸太に宿った神**と言えるでしょう。本来、神はその姿が見えないはずですが、**日常的に流れて来るはずのないもの**(ここでは丸太)**が流れてきたらすぐに逃げろ。これからもっとひどいことが起きるぞ**ということを伝えているのです。

これらの話は現実的にはあり得ませんが、**あり得ない話を伝えることによって印象付け村人が共同で記憶できる**ような仕掛けになっているのだと思われます。

避難所としての神社

神林は欧米の高塔と等しくその村落の目標となる、
と言えり。漁夫など一丁字なき者は海図など見るも
分からず不断山頂の木また**神社の森のみを目標と**
して航海す。洪水また難破船の節、神林目的に泳
ぎ助かり、洪水海嘯の後に神林を標準として他処の
境界を定むる例多し。(中略)わが邦幸いに従来大
字ごとに神社あり仏閣ありて人民の労働を慰め、信
仰の念を高むると同時に、一挙して和楽慰安の所を
与えつつ、また地震、火難等の折に臨んで避難の
地を準備したるなり。(後略)

南方熊楠

解説

これは、明治時代39年に施行された1町村1社を原則とする神社合祀令(神社を整理しまとめて祀る)に対し、南方熊楠(博物学者・生物学者・民俗学者)が反対の意見を東京帝国大学農学部教授の白井光太郎に宛てた書簡の一部です。

神社が信仰の場であるとともに、航海の目標であり、慰安の場であり、災害時の避難所であったことが書かれています。

皆さまお住いの地域のハザードマップで社寺の位置を確認してみてください。多くの社寺が洪水の影響を受けない場所にあります。

避難所としての社寺

我孫子市 波除不動尊



出典: 国土地理院ウェブサイト

https://maps.gsi.go.jp/#14/35.881540/140.075941/&base=std&ls=std%7Chillshademap%7Cslopemap%7Canaglyphmap_color&blend=111&disp=1111&lcd=anaglyphmap_color&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0f1
地理院タイル (標高タイル) を加工して作成



解説
波除神社、波除**不動**、波除**八幡**、波除**稻荷**など「波除(浪除)」の尊称を冠する神仏が見受けられます。
神仏が津波や洪水を食い止めるといった霊験譚が伴う場合が多いようです。
築地の波除神社には、「ある夜、海面に光る物体が漂流しているので船を出して引き上げてみると、稻荷大神の御神体であり、社殿を造り祀ったところ、強い波風により難航していた入江の埋立て工事が順調に進み完了した、という言い伝えがあります。
「波除(浪除)」の付く神仏もその地域では水神として信仰されていたのでしょう。



写真撮影: 小宮雪晴

まとめ

洪水は村にとっても、個人にとっても存続・生命にかかわる災害です。人間は、被害を減らすことができても、天変地異を無くすことはできません。

過去の人々は防災、減災のため自分たちでできる対策は行いました。それに加え、人間の力の及ばない範疇は神仏に祈ったのです。もちろん水・水神への感謝も忘れてはいません。水源を称え、反乱頻発地点を見守り、暴れる水をなだめたのです。

自然と自然現象に対する信仰は、野蛮でも文化が未熟なわけではなく、人間の存在としての自覚の問題(人間は万能ではない)であると考えます。これが過去の人々の災害との付き合い方、折り合いの付け方と言えます。

人間中心主義の時代に、あらためて、神仏や地域に残る伝承(口承・書承)に目を向けてみるのも良いのではないのでしょうか。きっといつもと景色が変わりますよ。

最後までご覧いただきありがとうございました。